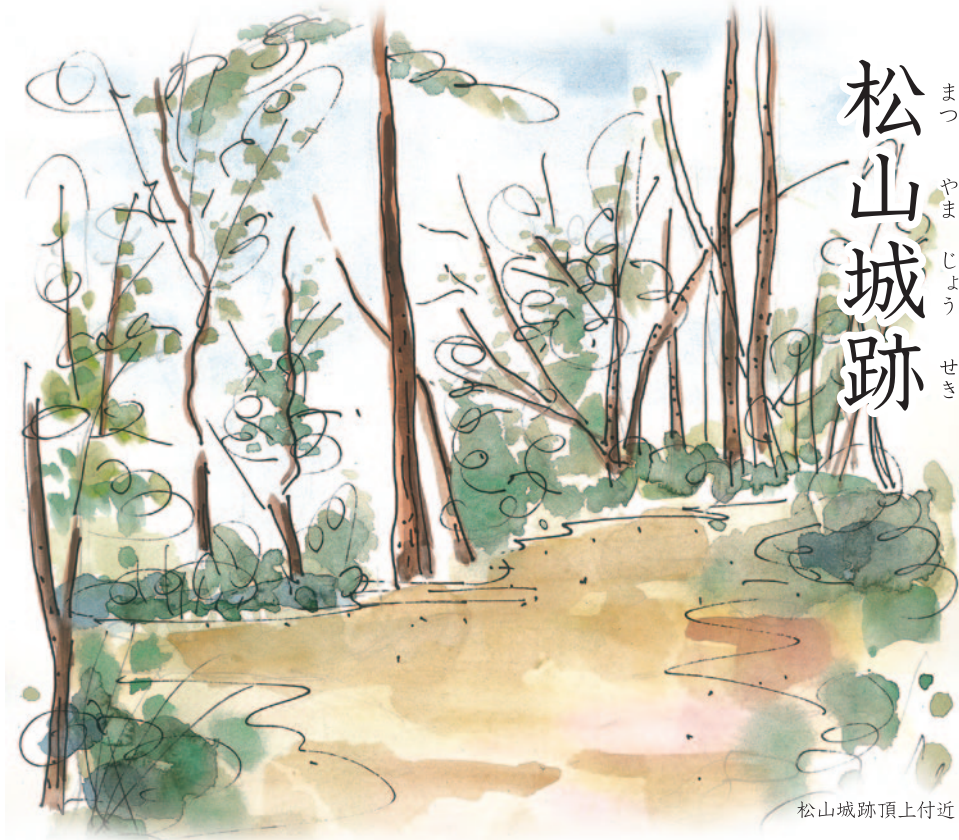
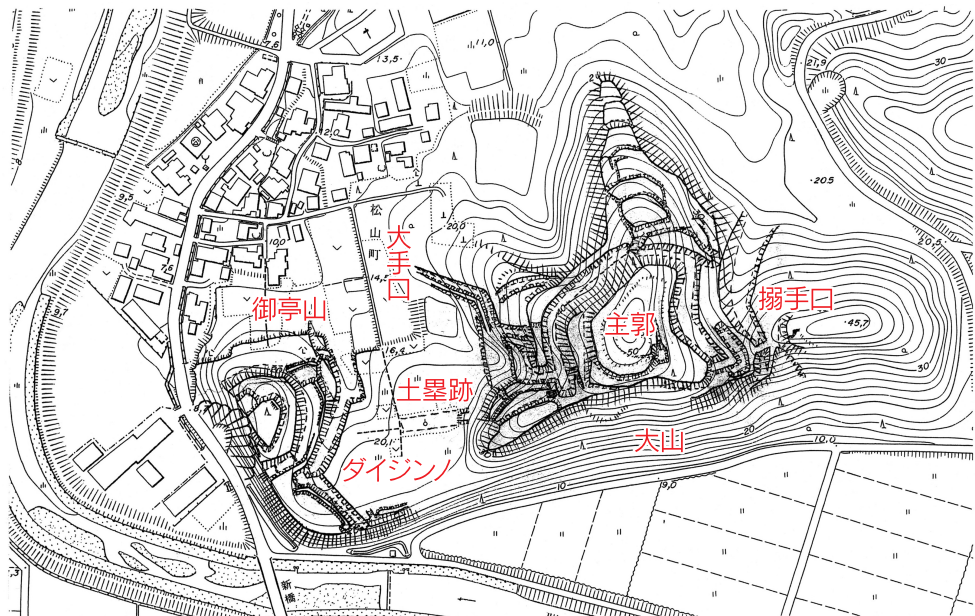


松山城跡縄張図



まつやまじょうせき 松山城跡

松山城跡頂上付近



大山主郭平坦面



御亭山

松山城は、天正四年（一五七八）織田信長の将であつた佐久間盛政の家臣、徳山五兵衛則秀が、加賀の一向一揆を攻略する際に築かれたと伝えられています。

天正八年、金沢御堂が陥落した後、一揆方の残党坪坂新五郎が、徳田小次郎や宗徒とともに盾籠もり

ましたが、織田方の猛将柴田勝家軍によつて壊滅され、以後廃城になつたとされています。

降つて慶長六年、大聖寺城の山口玄蕃を攻めるために南進した前田利長軍が、この松山古城跡に本陣を置きました。大山と御亭山の間にある平坦面が「ダイジン」といわれたのは、ここに本陣を置いたからだといわれています。



松山城跡遠景写真

松山町背後の丘陵に二つの城跡があります。最も高い大山にある松山城跡と、西に延びた御亭山にある砦跡で、御亭山は松山城の出城ともいわれますが、松山城の一部と見ることもできます。

大山の山頂は平坦に削られ、主郭が置かれていました。その周りの山裾に大規模な空堀や土手が巡らされています。東側に下がったところに、堀と土手を複雑に入り込ませた所があり、城の背後を固める「搦手口」と考えられます。

御亭山の頂部も平坦に築かれ、周囲は犬走りがあり、大山側に大規模な堀と土手を設けています。

大山と御亭山を繋ぐ尾根に、最も広い平坦面が設けられています。城主たちが普段生活をしていた部分と考えられます。

大山及び御亭山の主郭からの眺望は素晴らしく、江沼平野全体を眼下に収めることができます。